

2008年7～9月期2次QE予測

2008年12月4日

調査本部

TEL. 03-3591-1243

12月9日(火)、内閣府より2008年7～9月期の「四半期別GDP2次速報」(2次QE)が公表される。現段階で入手可能な基礎統計により推計すると、同期の実質GDP成長率は前期比▲0.3% (年率▲1.2%)に下方修正される見込みである。設備投資の下方修正によって内需寄与がマイナスとなり、7～9月期時点で国内需要・外需とも落ち込んでいたことが確認されるであろう。

<上方修正に寄与>

住宅投資前期比 : +4.0% ⇒ +4.1%

公共投資前期比 : +0.4% ⇒ +0.5%

<下方修正に寄与>

設備投資前期比 : ▲1.7% ⇒ ▲3.0%

政府消費前期比 : +0.1% ⇒ +0.0%

輸入前期比 : +1.9% ⇒ +2.0%

以上

2008年7～9月期の2次QE
は設備投資を中心に下方修
正

12月9日(火)、内閣府より2008年7～9月期の「四半期別GDP2次速報」(2次QE)が発表される。本日発表された法人企業統計等を受けて、みずほ総合研究所が試算したところ、7～9月期の実質GDP成長率(2次速報)は前期比▲0.3%(年率▲1.2%)と、1次速報段階の前期比▲0.1%(年率▲0.4%)から下方修正される見込みである(図表1)。設備投資の下方修正により内需寄与度がマイナスとなり、国内需要・外需ともに落ち込んでいたことが確認されるであろう。名目GDP成長率も前期比▲0.8%(年率▲3.1%)と、1次速報の前期比▲0.5%(同年率▲2.1%)から下方修正される見込みである。

【図表1 2008年7～9月期2次QE予測】

(単位・%)

実質GDP成長率 (前期比)		実質GDPに対する寄与度											名目GDP	
		実質GDPに対する寄与度				前期比 (在庫投資は寄与度)								
		内需	民需	公需	外需	個人消費	住宅投資	設備投資	在庫投資	政府消費	公共投資	輸出		輸入
2次速報値 (年率)	▲0.3 (▲1.2)	▲0.1	▲0.1	0.0	▲0.2	0.3	4.1	▲3.0	0.0	0.0	0.5	0.7	2.0	▲0.8 (▲3.1)
1次速報値 (年率)	▲0.1 (▲0.4)	0.1	0.1	0.0	▲0.2	0.3	4.0	▲1.7	0.0	0.1	0.4	0.7	1.9	▲0.5 (▲2.1)

設備投資は大幅に下方修正

法人企業統計季報によると、7～9月期の設備投資(ソフトウェアを除く全産業ベース)は前年比▲13.3%(4～6月期同▲7.6%)とマイナス幅が拡大した。2次QEの推計方法に則してサンプル調整を施し、さらにリース会計基準変更の影響を調整すると前年比▲5%前後のマイナス(みずほ総合研究所推計)となる。これによってGDPベースの設備投資は1次速報の前期比▲1.7%から同▲3.0%に大きく下方修正される見込みである。

在庫投資寄与度は変わらず

民間在庫投資は、法人企業統計の結果を受けて原材料在庫や仕掛品在庫の推計値が加わるが、実質GDP成長率に対する寄与度は1次速報段階の+0.0%Ptから変わらないとみられる。

内需寄与度は▲0.1%Ptに
下方修正

その他の内需項目では、住宅投資が1次速報値の前期比+4.0%から同+4.1%に、政府消費が同+0.1%から同+0.0%に、公共投資が同+0.4%から同+0.5%にそれぞれ小幅の修正が見込まれる。設備投資の下方修正を主因に、内需寄与度は1次速報値の+0.1%Ptから▲0.1%Ptに下方修正される見込みである。

外需も下方修正

外需については、輸出の伸びは1次速報値から変わらず、輸入が同+1.9%から同+2.0%にわずかに上方修正されると予想する。実質GDP成長率に対する外需寄与度は▲0.2%Ptと1次速報値から変わらない見込みである。

内需・外需ともマイナス寄与
で厳しさがより鮮明に

以上のように、今回の2次QEでは設備投資を中心に内需が下方修正されて、国内需要・外需ともマイナス寄与という結果になりそうだ。金融危機後の世界経済失速を受けて10～12月期以降、輸出が減少に転じることは確実であり、成長率のマイナス幅はさらに拡大することが予想される。

※ みずほ総合研究所では、2次QEの発表を受けて、2008・09年度内外経済見通しを改訂する予定(12/11発表)です。

MIZUHO

The logo for Mizuho, featuring the word "MIZUHO" in a bold, dark blue, sans-serif font. Below the text is a red, curved underline that starts under the 'M' and ends under the 'O', arching slightly upwards in the middle.